

令和 4年度

事務事業評価表 (令和 3年度 の実績評価)

記入年月日
令和 4 年 4 月 1 日

事務事業名		認知症サポーター養成事業				事業区分		担当	
						新規/継続	継続	事務事業No.	010604000997
						単独/補助	補助		040501
政策体系		政策体系上の位置付け						所属課	高齢福祉課
総合計画の施策名		0106 高齢者福祉の推進						課長名	
政策名		01 子どもから高齢者まで健康で共生のまちづくり						グループ	地域包括支援グループ
施策名		06 高齢者福祉の推進						担当者名	
手段名		04 ④認知症への対応推進							
		財務会計上の位置付け				事業期間			
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	介護保険特別会計		
	06	05	05	01	01	00	任意事業		
法令根拠		介護保険法				単年度繰返し (平成21年度~)			
						期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入			

(Do) 1. 事務事業の現状把握 (その1)

(1) 事務事業の概要	
①事務事業の概要 (事務事業の全体像)	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順
認知症の基本的な知識や認知症の人への対応の仕方について学ぶ機会を設け、職場や地域で認知症の人やその家族に対する社会的理解の普及を図ることを目的とする事業である。また、講座を受講したサポーターがボランティアとして活躍できる場を整備していく。	認知症サポーター養成講座の企画・立案 使用教材の準備、講座開催後の報告事務 桜川市認知症介護アドバイザー会との連絡調整

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度
			(実績)	(実績)	(計画)	(目標)	(目標)
関係機関との連絡調整 教室の企画及び実施	教室の開催数	回	9.00	5.00	8.00	11.00	13.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度
桜川市人口	桜川市人口	人	39,122.00	38,422.00	37,852.00	37,282.00	36,712.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度
認知症サポーターを養成し、認知症の人やその家族を見守り、支援する人が増える。	認知症サポーター養成者数	人	343.00	306.00	350.00	400.00	450.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量 (事業費) の推移

投入量	事業費内訳	単位	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	期間限定 総投入量
			(実績)	(実績)	(計画)	(目標)	(目標)	
事業費	国庫支出金	千円	9	27	37			
	県支出金	千円	5	13	19			
	地方債	千円	0	0	0			
	使用料・手数料	千円	0	0	0			
	その他	千円	5	17	21			
	一般財源	千円	5	13	19			
	事業費計(A)	千円	24	70	96			
	正規職員従事人数	人	3.00人	3.00人	3.00人			

03年度事業費 実績 (千円)

04年度事業費 予算 (千円)

事業費の内訳	03年度	04年度
07 報償費	5	5
10 需用費	55	81
11 役務費	10	10
合計	70	96

事務事業名	認知症サポーター養成事業	事務事業No.	10604000997	所属課	高齢福祉課
(4) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？					
平成21年度より「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」をスローガンに認知症に関する知識や情報提供等を市民に啓発することを目的とし開始された。令和元年「認知症施策推進大綱」が示され、普及啓発・本人発信支援が更に求められ、養成講座終了者へのステップアップ講座や活動の機会を設ける取り組みが始まった。					
(5) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？					
現在、依頼のあった小・中学校、高等学校、市民を対象に養成講座を開催しているが、他の学校、企業でもサポーター養成講座を広められるとよいのではないかと。					

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評価項目	
改革改善を行う	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 認知症の高齢者は増加傾向にあり、地域で認知症を正しく理解し、見守る人が増えることは高齢福祉の推進に結びついている。
有効性	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？) (法定受託事業はその名称)
	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 介護保険事業の地域支援事業として定められているため。
効率性	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある 認知症サポーター養成の拡大を図りつつ、今後はできる範囲で手助けを行うというサポーター活動の任意性を保ちつつ、本人や家族の支援ニーズにあった具体的支援につなげる仕組み「チームオレンジ」を構築する。
公平性	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有 市民への認知症の正しい理解の普及が図られなくなり、認知症の人や家族が安心して暮らしにくくなる可能性がある。
公平性	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか？(市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合)
	<input checked="" type="checkbox"/> 余地がない 類似事業がない。
公平性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 講座の講師は認知症介護アドバイザー(ボランティア)が実施しており削減余地はない。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 一般市民を対象としているので、公平である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																						
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	サポーター養成講座終了者を対象に、ステップアップ講座を今年度始めて開催した。今後は、認知症サポーターとなった市民が、認知症カフェ等のボランティア活動に協力するなど、地域で活動が行えるよう体制整備を図っていく必要がある。																						
③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																							
(3) 今後の事業の方向性																								
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 現状維持																								
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																						
本人や家族との交流から、必要とするサポートを認知症サポーターが考える機会も必要である。認知症カフェでの交流がその1つである。今後は、認知症サポーターが活動する拠点が必要となることも踏まえ、検討していく必要があり課題である。		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		○																					
	維持			×																				
	低下		×	×																				
(6) 事務事業優先度評価結果		成果優先度評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥																						

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> B A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>